

# 学部専門科目を通じた教員養成 — 『教職キャリアノート』に見る学生の学びから —

坂田 大輔

(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)

## 1. 問題の所在

現在、学部における教員養成の充実が求められている。具体的には、中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」（2012年8月28日）に、当面の改善方策として、次のように記されている。

(1) 国公立大学の学部における教員養成の充実

○ …教員としての基礎的な資質能力を確実に育成するため、国公立を通じて学部における教員養成の改革を更に推進する。

①教員養成カリキュラムの改善

○…特に、教員養成系以外の課程における教科に関する科目については、全学的組織である教員養成カリキュラム委員会等の組織を活用し、担当教員に対し、教職課程の科目であることを意識して展開することを徹底することが必要である。

(pp. 12-13 より引用、下線は坂田による)

本学部では、シラバス入力の際、授業の概要欄または備考欄に教科に関する科目である旨の記載をすることとなっている。このこと以外に、教科に関する科目であることを意識化するための方策を施していないのが現状である。このような現状において、教科に関する科目が、学生の教員としての資質能力獲得にどれだけの役割を果たしているのだろうか。ここに私の問題の所在がある。

そこで、本発表においては、教科に関する科目が、現状において、学生の教員としての資質能力獲得に果たしている役割を明らかにし、提案する。そして、ワークショップでは、参加者の授業の具

体に即しながら、役割を整理し、共通理解を図る。さらに、教科に関する科目であることのさらなる意識化を図るための方策を探りたい。

## 2. 研究の方法

本学部生は、受講した授業での学びについて省察し、『教職キャリアノート』に記述している。省察の観点は、「授業を受講して学んだこと」「教師になるために必要だと思ったこと」の2点である。本研究では、2年次生の『教職キャリアノート』を用いる。

まず、教科に関する科目の授業省察記録について、上記の后者の観点に関する記述内容から、教員としての資質能力に関する内容を抽出する。このことにより、学生が着眼している教師としての資質能力を明らかにする。

次に、抽出した内容をもとに、その資質能力が、本学部で措置している「教員として身につけておくべき資質能力」のどこに位置付いているのかを明らかにする。そして、教科に関する科目の授業における工夫や教師の言動が、資質能力獲得のためにどのような役割を果たしているか考察する。

最後に、以上のことに基づいて、教科に関する科目が、教員としての資質能力獲得に果たしている役割について明らかにしたい。

## 3. 教科に関する科目の授業で、学生が着眼している教員としての資質能力

『教職キャリアノート』の授業省察記録から抽出した、教科に関する科目において「教師になるために必要だと思ったこと」についての内容は、次頁の表1の通りである（紙面の都合上、要約して一部のみ掲載する）。抽出内容は、「(1)授業展開上の工夫」「(2)授業構成上の工夫」「(3)教員の配

慮等」に類別できる。

(1)授業展開上の工夫	①関連する図、動画等の提示により、視覚的に理解しやすい。 ②資料プリントの配布により、理解しやすい。 ③録音することで、自分の発話の課題を見つけやすい。 ④毎時間の目標を明示することにより、学習することが明確になる。 ⑤色チョークを使い分けた板書は、理解しやすい。 ⑥授業後の小レポートにより、理解度が確認できる。…
(2)授業構成上の工夫	①調査結果を発表する場があることで、相手に分かりやすく伝える工夫を考えられた。 ②自分で考える時間があったことで、自分で考え伝え実行する力がついた。 ③グループワークで意見をまとめ、発表することで、協力して主体的に考え、伝える力が身についた。 ④授業の初めに毎回ゲームを取り入れていた。生徒間の距離を縮める方法として取り入れたい。…
(3)教員の配慮等	①生徒の些細な変化も見逃さないことは、生徒に安心感を与える。 ②生徒が言ったことを否定せず受け止めることは、学習意欲の向上に繋がる。 ③生徒の顔を見て話すことは、コミュニケーションにおいて重要だ。 ④常に生徒の立場になって考えてくれる。信頼関係をつくるために大切だ。 ⑤教師の言動には、メリハリがある。しっかりとほめ、叱る時は叱る。…

表1 教科に関する科目の授業で、学生が着眼している教員としての資質能力

#### 4. 本学部で措定している「教員として身につけておくべき資質能力」との関係

本学部では、「教員として身につけておくべき資質能力」として、イニシアティブ力（創造力・企画力、使命感、自己統制力）、コーディネート力（人間関係調整力、協働力、社会性）、生徒指導力（コミュニケーション力、個人指導力、集団指導力）、学習指導力（授業構想力、展開力、評価力）を措定している。表1で示した(1)~(3)の教員の工夫や言動との関係は、表2のようにまとめられる。

創造力・企画力	
使命感	
自己統制力	
人間関係調整力	(2)③のような工夫により、学生が獲得。
協働力	(2)③のような工夫により、学生が獲得。
社会性	(2)③のような工夫により、学生が獲得。
コミュニケーション力	(2)①②のような工夫により、学生が獲得。 (3)①④⑤のような教師の言動により、大切であると学生が意識。
個人指導力	(2)①④のような工夫により、大切であると学生が意識。
集団指導力	
授業構想力	(1)①~⑤、及び(2)④のような工夫により、授業における教師の手だてとして学生が意識。
展開力	(3)②③のような教師の言動により、大切であると学生が意識。
評価力	(1)⑥のような工夫により、授業における教師の手だてとして学生が意識。

表2 学生が着眼している資質能力と「教員として身につけておくべき資質能力」との関係

#### 5. 教科に関する科目が、学生の教員としての資質能力獲得に果たしている役割

表2からは、次のようなことがいえる。

(1)創造力・企画力、使命感、自己統制力、集団指導力は、教科に関する科目との直接的な関係が見受けられない。

(2)教科に関する科目との関係性が強い資質能力については、次の通りである。

①授業構成上の工夫により、人間関係調整力や協働力、社会性、コミュニケーション力を学生が獲得する。

②授業構成上の工夫や教員の言動により、コミュニケーション力や個人指導力が大切であると学生が意識する。

③授業展開上の工夫により、授業構想力や展開力、評価力の表れである具体的な手だてを学生が意識する。

以上のことから、上記の(2)のような工夫により、資質能力を獲得または意識できるようになることが、教科に関する科目が、学生の教員としての資質能力獲得に果たしている役割であるのとらえる。②③については、意識することでとどまっているが、今後、教科教育法等の授業や、「教育実習」「教職実践演習」との関連の中で、獲得できるようにしていくことが極めて重要である。